

4段階評価： 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン	「幸せ」いっぱい 児童が「幸せ」	みんなの学校 教師が「幸せ」	保護者・地域が「幸せ」
--------------	---------------------	-------------------	-------------

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	具体的な数値 目標等	具体的な取組	自己評価		結果の考察及び改善対策
				取組別	総合	
知 育	重点目標： 学力向上の推進 【手段】 1 一人一人に応じた きめ細かな指導の 充実と「わかる・ できる授業」づくり	1 ○NRT・CRT 学力調 査全国・県平均以 上 ○単元テスト 80 点 以上	① 複式解消非常勤講師及び教頭による複式解消 ○ 複式解消非常勤講師＝3・5年算数、 4・6年国語を担当 ○ 教頭＝1年算数、2年国語を担当 ○ A年度・B年度指導（国・算以外） ② 個別指導の充実 ○ 一人一人の学力分析による実態把握と個に応じた 指導 ③ フロントアタイムによる学力向上 ○ 月曜朝の活動の時間（8:30～9:00）における国語・算 数の学力の定着・向上 ○ フロントアタイム学習週間（9月末・2月末）における 管理職も参加しての補充学習 ④ 研修の充実・授業力向上 ○ 4つのチェックポイントによる授業改善 ⑤ ICTの活用 ○ ICT支援員との連携による教師のICT活用能力 ・指導力の向上と児童のICT活用能力の向上 ○ 情報モラル教育等の実施 ○ PCスキルアップタイムで児童のスキルアップ（火・ 木・金の8:05～8:15）	3	3	○小規模特認校制度を利用して転入した児 童に対して、算数の時間に校長が未履修 内容も指導しながら、学習を進める 取り出し指導を行った。 ○複式解消による指導により、児童の個性 に応じた指導方法を工夫し、個に応じた 指導ができた。 ○タブレットを活用することで、児童の教 科に対する意欲が向上するとともに、活 用能力も向上した。また、電子黒板を活 用したことで、授業の効率化と児童の理 解力向上を図ることができた。 ○小林市の ICT サポーターの支援により、 道徳の遠隔授業やタブレット活用の授業 がスムーズにできた。 ●朝の時間などに行うフロントアタイム学習の 内容及び情報モラル教育の充実を図る必 要がある。 ●個別指導をさらに計画的に充実させてい きたい。
	2 小中一貫教育（3 校合同研究）の推進 と一人1研究授業 を通じた授業改善	2 ○一人1研究授業 の実施 ○3校合同研究会・ 研究公開の実施	① 職員研修・主題研究の充実（新しい研修制度） ○ 一人1研究授業による授業力向上 ○ 道徳指導の工夫 ② 3校合同研究（道徳）の充実 ○ 定期的な3校合同研究会の実施 ○ 共同研究の推進と自校研究への活用 ○ 研究公開へ向けた準備の充実	3	3	○一人1研究授業を行うことで指導の工夫 やICTの活用について考えることがで きた。 ○11月2日に3校合同の研究公開を行 い、道徳に関する研究の成果として授業 を見ていただくことができた。
	3 キャリア教育の 充実	3 ○「こすもす科」 100%実施 ○ 地域人材活用	① 「こすもす科」の計画的な実施 キャリア教育のねらいをふまえた「こすもす科」の授 業の完全実施 ② 地域人材活用 ○ 「KSSVC」を活用しての地域人材による授業や 活動の充実 ○ かおる幼稚園との連携（交流・職場体験）	2	2	○コスモス科を確実にを行い、多くの活動の中 において、手話指導をはじめ小林市の人材を多 く活用して授業を行うことができた。 ○生活科とコスモス科による低・高学年とかお る幼稚園との交流では、児童が企画した遊び を一緒にを行い、楽しく活動することができた。
	4 読書活動の推進	○ 年間読書冊数 一人100冊以上	① 学校図書館協力員による図書室整備と蔵書の充実 ○ 継続的な図書室整備と計画的な図書購入による蔵書 の充実 ② 朝の時間の活用 ○ 朝の読書の実施 ○ 「幸ヶ丘読み聞かせ生駒」や職員、西小林中学生に よる読み聞かせを通じた読書への関心意欲の向上 ③ ノーマディア・読書量アップ週間（年4回） ○ 家庭と連携した読書の充実とメディアへの接触時 間の削減 ④ 家読の推進 ○ 家庭での読書推進の啓発 ⑤ 図書館の保護者開放・貸出	3	3	○読み聞かせに18回来ていただき、たくさん の本と出会うことができた。 ○子どもたちが楽しみながら読書活動ができる よう読書ビンゴや福袋など様々な取組がされ ており、積極的に図書室へ通う姿が見られた。 読書への意欲の向上を感じた。100冊以上 借りた児童も1月で4名と昨年度より増え た。 ●図書館の保護者開放・貸出がなかなか難しい と感じた。 ●ノーマディア週間に取り組み、意識は高まっ て週間中は時間の減少が見られたが、通常は やはりメディアにふれる時間が多い。
	5 家庭学習の充実	4 ○ 家庭学習の確 実な見届け ○ 「家庭学習チャ レンジ週間」の活 用と学習状況の チェック	① 担任による確実な見届け ○ 個に応じた課題 ○ 学習意欲を喚起するための提出物への確実な見届け と称賛 ② ノーマディア・読書量アップ週間に「家庭学習チャレ ンジ週間」を実施。 ○ 家庭学習の手引きを活用 ○ 家庭での振り返り状況の把握と対策	3	3	○担任を中心に個に応じた課題を出し、確実に 見届けを行った。 ○家庭学習チャレンジ週間を設定することで、 児童が意識して計画的に学習に取り組むよう になった。
徳 育	重点目標： 豊かな心の教育の推 進 【手段】 1 西小林中校区のき まり定着100%と 集団規律の徹底	1 ○ 「学習・生活の構 え」についての意識 の高揚（立腰及び鉛筆 の正しい持ち方の定着 100%） ○ 3校合同の学習・生活 のきまりの100%徹底	① 全職員による共通実践と意識の継続化 ○ 全職員による重点指導事項の共通理解・共通実践 ○ 常時指導（意識付けの言葉かけ等）による立腰・鉛 筆の持ち方の徹底 ○ 無言の場・集団行動時の規律等の徹底 ② 基本的生活習慣の確立 ○ 3校合同生活目標の具体的指導	3	3	○常時指導を行うことで、児童が常に意識して 立腰や鉛筆の持ち方に取り組むことがで きた。 ○全校集会や日々の指導で学習や生活のきまり を話すことで、規範意識が高まってきている。 ○朝や帰るときのあいさつが立ち止まって一礼 してできるようになってきた。【STA運動（先 に立ち止まってあいさつ）の定着】
	2 道徳教育の充実	2 ○ 「考え、議論する」 道徳指導の工夫 ○ 西小林小との交流 ○ 授業公開（年1回） （保護者・学校運営 協議会）	① 道徳研修の実施・別業の活用 ○ 3校合同研究による「考え、議論する」道徳指導の 研究 ② 西小林小学校との交流での道徳の時間実施 ○ 多様な意見・考えがあることの理解 ③ 道徳授業の保護者参観の設定 ○ 7月参観日の道徳の参観授業の実施（人権関係）	3	3	○3校で協力して研究公開を実施することがで きた。実践を通してお互いを認め合う姿をさ らに伸ばしていきたい。 ○道徳の授業を数多く行うことで、児童が「考 え、議論する」姿が見られた。

徳育	3 朝のボランティア活動の活性化	3 ○ 参加率 100%	① 環境整備を通じた奉仕の精神、愛校心の涵養 ○ 校内清掃の内容の充実と自主的な取組への啓発 ○ 賞賛と支援による活動の充実	3	○児童が自ら、積極的に朝のボランティアを行っていた。また、清掃に関してもいつも全員が一生懸命行っている姿が見られた。
	4 みどりの少年団活動の活性化	○ 栽培活動の充実	① 卒業式に向けた一人二鉢栽培の実施 ② 学級園等における栽培の実施 ③ サツマイモ栽培と収穫 ④ 学校の花「コスモス」の栽培	3	○時期に応じて、全員で協力して栽培を行うことができた。 ●次年度は、募金活動などさらに活性化できるように積極的に取り組んでいきたい。
	5 自信と達成感の涵養	○ 「幸ヶ丘太鼓」の取組 ○ 外部講師招聘 ○ 多くの発表機会の設定 ○ 1児童1作品の入賞・新聞等掲載	① 太鼓指導の充実 ○ 外部指導者（響座）と職員による指導の実施と内容の充実 ② 多くの発表機会の設定 ○ 運動会、音楽大会、学習発表会、卒業式、県太鼓フェスティバル等での発表 ○ 学習発表会に向けての指導の充実（全校劇・音楽発表） ③ 積極的な作品応募・作品投稿 ○ 各種作品展やコンクール、宮崎日日新聞「若い目」や詩歌等への作品掲載を通しての自信と誇りの涵養	3	○響座の今村さんの太鼓指導の下に、児童が一生懸命取り組み、太鼓フェスティバルや西諸音楽大会などの発表会において、素晴らしい演奏をすることができた。 ○担任の先生を中心に多くの作品投稿を行い、全員が必ず1つは入賞したり、新聞に掲載したりすることができ、自信をもたせることができた。
	6 教育相談の充実	6 ○ 月1回の教育相談・すこやか委員会の実施	① 教育相談の充実 ○ 月1回教育相談アンケートを通しての児童の人間関係や家庭状況、心の状態等の把握といじめ等の早期発見 ② すこやか委員会の実施 ○ 教育相談の結果を全職員で共有し、問題行動等への早期解決への協議と共通実践	3	○教育相談アンケートを行い、児童の人間関係把握、いじめの早期発見に努めた。 ○すこやか委員会（いじめ不登校対策委員会）を月1回は必ず実施し、児童の実態を共有することで、日々の学校活動に活かすことができた。

体育	重点目標： 健やかな身体の育成 【手段】 1 個に応じた体力向上の推進	1 ○ 新体力テスト 5%アップ	① 体力の把握と体力向上プランの策定 ○ 児童一人一人の体力の把握と体力向上プラン策定 ○ 体育学習指導の充実（重点化） ○ 体力向上のための遊びの奨励 ○ 家庭と連携した児童の体力の状況周知と体力向上のための取組の共有	2	2 ○持久走大会や縄跳び大会に向けて体力テストの練習に励み、それぞれの記録が向上し、技も上達した。 ●個人それぞれで体力差があるため、5%アップは難しかった。 ●体力向上のための活動を紹介して、授業や昼休みなどに行い、向上させたい。 ○児童が教師と共に毎週水曜日に必ず行っていた。これからもみんなが楽しくできるように続けていきたい。 ○手洗いや消毒、換気については、養護助教諭を中心に徹底して行ったため、病気になる児童は少なかった。 ●生活習慣について集会での指導や保健だよりでの啓発を行っているが、なかなか定着できない。引き続き継続して指導することが必要である。 ○肥満率の解消について、指導を行い、少しずつ減少してきている。今後も継続して指導していきたい。 ●2月中旬現在で、全員登校の日が104日となっている。日頃から保護者と連携しながら、児童が元気に学校に登校できるよう支援していきたい。 ●定期的に家庭への啓発は行っていたが、むし歯の治療率は66%にとどまり、100%には届いていない。更なる啓発が必要である。
	2 外遊びの推奨	2 ○ 週1回の「幸っ子パラダイス」の実施	① 「幸っ子パラダイス」 ○ みんなで外で遊ぶ機会の設定（毎週水曜日）	3	
	3 基本的な生活習慣の定着	3 ○ 朝ごはんを食べてくる児童100% ○ 「ノーメディアデー」の定着100% ○ 感染症対策	① 保健指導の充実 ○ 朝食の内容充実のための保護者向け啓発活動（家庭での食習慣について親子で振り返る週間の設定） ② 保護者への啓発 ○ 学校保健委員会における指導の実施 ③ 「ノーメディアデー」の計画と実施 ○ メディアの弊害の講話や文書を活用した意識の高揚 ○ 家庭教育学級の間を活用した家庭との連携 ④ 手洗いや消毒、換気の励行	2	
	4 肥満率の解消	4 ○ 対象児童への保健指導の充実	① 保健指導の充実 ○ 家庭への協力要請と運動と生活面における保健指導の実施 ○ 学校保健委員会での外部講師による保健指導の実施	3	
	5 無欠席年間日数	5 ○ 全員登校の日100日以上	① 健康への意識向上と欠席日数の減少 ○ 元気で登校できることのすばらしさの話 ○ 日常の健康観察や保護者との連携の充実 ○ マスク着用、手洗い、うがい、手指消毒、3密回避等	2	
	6 むし歯治療率向上	6 ○ むし歯治療率100%	① 家庭への啓発 ○ 健康診断後及び長期休業中の治療勧告の実施 ② 児童の意識の高揚 ○ フッ化物洗口とむし歯予防の指導（歯みがき指導） ○ 保健指導や学級活動における指導の充実	2	
	重点目標： 望ましい食習慣の育成 【手段】 1 給食指導の充実 2 体験活動の充実	1 ○ 残菜0 ○ 正しい箸の持ち方100% 2 ○ 栽培活動の推進 ○ 各種教室の実施	① 偏食指導及びマナー指導 ○ 給食時間を利用しての指導の充実（自分に合った食事量・偏食・食事のマナー・箸の正しい持ち方など） ② 栽培活動との関連を図った指導の充実 ○ 食への関心の向上（梅ちぎり活動・サツマイモや野菜の苗植え・栽培・収穫など） ③ 外部機関による食体験の充実 ○ モーモー教室や味覚の授業等の実施を通じた食の体験の充実 ③ PTAと連携した体験学習 ○ 魚のつかみ取り大会・魚のさばき方教室の実施	3 3	

	3 家庭との連携 (弁当の日の実施)	3 ○ 弁当の日・食の贈り物 in 夏休み ○ 文書による保護者への啓発	① 弁当の日・食の贈り物 in 夏休みの実施 ○ 学年に応じた遠足の日の弁当づくりや夏季休業中における家庭での調理体験を通じた食への関心の向上と感謝の心の涵養 ② 家庭での望ましい食生活の啓発 ○ 定期的な、または適宜に発行する「保健だより」や「食育だより」を通じた保護者への啓発	3	○ 夏休みの「食の贈り物」、遠足の日の弁当づくりや調理体験を実施することで、食への関心が少しずつ高まった。 ○ 養護助教諭が定期的に詳しく分かりやすい文書を発行して保護者への啓発と意識を高めることができた。 ● 学校保健委員会でも、食育に関する内容が取り入れられるとよい。
その他	重点目標： 保護者や地域から信頼される安全・安心な学校づくり 【手段】 1 小小・小中連携及び幼保小連携の推進	1 ○ 小小・小中の交流学习年4回以上実施 ○ 幼保小連絡協議会年2回実施	① 交流学习、幼保小連絡協議会の充実 ○ 情報の共有や職員間の親睦、小1プロブレムや中1ギャップへの対応体勢の整備のための計画的な交流活動を実施 ○ 保育園や幼稚園との共通実践、連携をはかり、一貫した教育への取組（新入児の所属園とも連携） ○ かおる幼稚園との交流 ○ 西小林保育園視察研修	3	○ 西小林小学校との交流学习やかおる幼稚園との交流を行い、連携を図ることができた。 ○ 幼保小連絡協議会を行うことで、情報の共有が図れた。
	2 学校運営協議会の推進	2 ○ 学校運営協議会の年3回実施（中学校区年2回実施）	① 学校運営協議会の実施と内容の充実 ○ 開かれた学校づくりに努めるため、学校行事と関連させた学校運営協議会を実施 ○ 学校評価の実施と運営協議会委員の意見を取り入れた改善	3	○ 1月分は都合により、開催できなかった。また、2月に行われる西小林中学校区連絡協議会も中止となった。今後はもっと意見を取り入れて、よりよい活動がさらにできるようにしていきたい。
	3 防災教育の推進	3 ○ 学校における避難訓練年4回実施	① 避難訓練の実施 ○ 地震・火災・風水害（噴火）・不審者対応の4つについての避難訓練を実施 ○ 南体育館への二次避難 ○ 警察署や消防署との連携 ② 「自分の命は自分で守る」ことを主眼に、家庭や地域においても率先避難者となれるような教育の推進	3	○ 4つの避難訓練（火災・地震・不審者・風水害）を確実に行うことができた。今後も継続して危機意識を高めたい。 ○ 学習発表会が延期となったため、急遽、防災に関する講話や防災グッズ・防災食体験等を行い、防災に対する意識を高めることができた。次年度も是非防災学習を積極的に行っていきたい。
	4 信頼される教職員の育成	4 ○ コンプライアンス研修月1回実施 ○ 不祥事等の発生0件	① コンプライアンス意識の向上 ○ 毎月1回、コンプライアンス研修（交通安全や体罰、ハラスメント、情報漏洩など様々なテーマ）の実施 ○ 学校内から不祥事を出さないという意識の向上	3	○ 県のコンプライアンス通信と新聞記事、事例をもとに研修を行い、意識の向上に努めた。 ○ 今後も不祥事を出さないという意識を図っていきたい。

次年度の方向性についての校長所見	本年度は、学校教育目標を達成するために、学校経営ビジョンとして「『幸せ』いっぱい みんなの学校」を合言葉に、児童の居場所作りを念頭に教育活動を行ってきたが、次年度も方向性は同じで、「児童が幸せ、教師が幸せ、保護者・地域が幸せ」になるように、取り組んでいきたい。特に、本年度実施した ICT 教育や防災教育、食育の指導等については、さらに充実させていくとともに、やはり学力向上のために手立ての工夫を行っていきたい。また、小規模特認校でもあるので、一人一人を大切にしたい個別最適な授業の構築と魅力や特色ある学校づくりを行っていきたい。
------------------	---